

「俳句の力で愛媛県魅力倍増計画」
～令和 10 年度国民文化祭の開催地内定を踏まえて～

令和 7 年 6 月



文化芸術委員会

【提言書】

「俳句の力で愛媛県魅力増進計画」

～令和 10 年度国民文化祭の開催地内定を踏まえて～

1. はじめに

本提言書では、令和 10 年度に愛媛県で開催予定の国民文化祭を見据え、愛媛県が誇る俳句文化の魅力を最大限に活用し、地域の文化振興・教育・観光・産業に幅広く波及する施策として「俳句の力で愛媛県魅力増進計画」を提案するものである。

2. 愛媛における俳句文化の歴史的背景と意義

(1) 愛媛県が誇る文化的土壌

愛媛県は、日本に現存する 12 城のうち 2 城を擁し、城下町文化と地形を背景に、能をはじめとする古典芸能、四国遍路、道後温泉に代表される湯治文化、郷土料理、祭りなど、豊かな文化が根付いてきた地域である。

(2) 俳句の町・文学の町としての全国的認知

その中でも他県にはない特色として、俳句文化の厚みと広がりが見立っている。近代俳句を革新した正岡子規を筆頭に、高浜虚子、河東碧梧桐など、日本近現代俳句を代表する人物が松山出身であり、俳句界に今なお大きな影響を及ぼしている。さらに、子規の親友・夏目漱石が松山を舞台に『坊っちゃん』を著したことで知られ、文学の町としての評価も高い。

(3) 愛媛県全域に広がる俳句人脈と影響

松山出身の石田波郷や中村草田男、南予の松根東洋城、芝不器男、富澤赤黄男、東予に縁のある今井つる女や山口誓子、品川鈴子、深川正一郎など、県内各地で著名俳人が輩出されている。また、政治・経済界にも酒井黙禅（中予）、清家吉次郎（南予）、十河信二（東予）など俳句を嗜む文化人が多く、俳句が生活文化として広く浸透していることも愛媛の特徴である。

(4) 多様な俳句系統の共存

高浜虚子の系譜とは異なる俳句観をもつ石田波郷や富澤赤黄男らをも輩出した愛媛は、異なる俳句思想が共存・発展してきた稀有な地域であり、これは俳句文化の厚みと多様性を示す重要な事実である。

(5) 江戸期から続く文化的蓄積

愛媛における俳句の歴史は近現代に限られない。松山藩では江戸時代から俳諧が盛んであり、藩主松平定直や重臣たちが芭蕉の高弟・其角に学んでいた。栗田樗堂

や山中家など地域の庄屋・町人層にも俳句文化が浸透し、正岡子規らの出現を準備する素地が江戸期より形成されていた。

(6) 俳句甲子園による次世代への継承

現在、全国高校生俳句選手権「俳句甲子園」は、全国から高校生や保護者・OB・OGが集う大規模文化行事であり、次代の俳人育成の場としても注目されている。また、教育的観点からも高く評価されており、地域文化が教育と結びつく好例となっている。

3. 俳句と国民文化祭の親和性

(1) 国民文化祭の開催趣旨との合致

文化庁は国民文化祭について「観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策と有機的に連携しつつ、地域の文化資源等の特色を生かした文化の祭典であり、各種の文化活動を全国規模で発表、共演、交流する場を提供するとともに、文化により生み出される様々な価値を文化の継承、発展及び創造に活用し、一層の芸術文化の振興に寄与するもの」と定義している。

この理念と俳句文化とは非常に高い親和性を持つ。各関連分野との有機的な連携、地域の文化資源の特色を生かすという点において、まさに俳句が有効といえる。なぜなら、俳句は小説や詩と異なり、五七五で完結する小さな文芸であるため、ほぼあらゆる異分野と融合しながら共存できる稀有な詩歌だからである。

(2) 俳句の特性を生かした分野横断型の展開

俳句は日本文化の本質といえる季節感を重視する伝統ある詩歌だが、同時に多くの人に親しまれ、創作の敷居が低く、また大がかりな設備も必要なければ、小説のように完成まで時間を必要としないため、様々な分野と共存しながら多くの人々に参加を促すことのできる詩歌である。

例えばスポーツや科学、他の文化行事と俳句行事を融合させた複合行事も可能であろう。主となる行事に付随する形で、その行事についての俳句を詠むイベントを添えることで両行事は共存可能であり、何より様々なイベントに俳句を付加すれば、その各種イベントには「愛媛らしさ」が加わる点も見逃せない。

他県でも実施されるであろう各種行事も、そこに俳句イベントを添えることで愛媛県らしい行事へと変貌する可能性があり、これは他県には困難な愛媛独自の行事開催方法といえるだろう。

(3) 俳句イベントを通じた地域アイデンティティの強化

このように、俳句を用いたイベントは、他県でも実施可能な行事に「愛媛ならではの文化的視点」を加えることができ、県外との差別化と文化的魅力の発信につながる。俳句を“文化の触媒”とすることで、愛媛独自の立体的な文化祭プログラムが形成可能である。

(4) 令和9年「俳句甲子園第30回記念大会」との連携

令和9年8月に開催される「俳句甲子園第30回記念大会」と、令和10年に開催予定の国民文化祭の連携は、双方にとって絶好の相乗効果を生む機会となる。記念大会を活用した全国規模の事前広報、若年層との接点形成、教育現場との連携強化が期待される。

4 提言：「俳句の力で愛媛県魅力倍増計画」

愛媛県の俳句文化は、江戸期から連綿と続く歴史的深みと、俳句甲子園に象徴される現在の活力とを兼ね備えている。これは他県にはない“縦軸（歴史）と横軸（現代）”の交差を実現できる文化資源である。また、教育や観光、産業分野と柔軟に連携可能な俳句という文芸の特性を生かすことで、国民文化祭を契機に愛媛県の魅力を全国に向けて発信する、強力な推進力となるものと確信する。

については、愛媛県が俳句文化を核とした多面的な施策を展開し、「俳句の力で地域の魅力を倍増させる」先進的なモデル県として、令和10年度開催予定の国民文化祭を大いに成功させることをここに提言するものである。

(1) 国民文化祭までに醸成する俳句を活用したまちの姿（ソフト・ハード両面での環境整備）

<ソフト>

- ・俳句イベントの把握。常時各地で開催されている催しや団体との連携。
- ・地元の特産品や観光地をテーマにした俳句の創作促進
- ・愛媛県主催の俳句コンテストを準備し、愛媛県が押し出す新しい俳句や俳人を発掘し育てる仕組みづくり

<ハード>

- ・インバウンド向けの整備として、句碑や、街に掲示してある俳句の英訳およびアジア圏言語の展示（QRコードの設置）
- ・景観、外観、インフラ、など、ビジュアル的に町全体に俳句感を感じるための整備
- ・俳句スポット・観光名所・俳句を楽しむための散策路の整備
- ・地域資源（食や産業、観光名所）との連携・開発（例：俳句BARなど）

<ハード又はソフト>

- ・俳句研究所の創設（松山市立子規記念博物館、愛媛大学俳句・書文化研究センターとの連携、情報交換）

(2) 国民文化祭開催に向けて展開するイベントプログラム

①実施期間

令和10年8月19日（俳句の日）～9月19日（糸瓜忌）

この期間を「俳句月間」とし、8月中旬スタートの「俳句甲子園」を皮切りに、下記のような愛媛県主催のイベントを展開して最終日は子規忌の集いでフィナーレを迎えることとする。

②イベントの内容

- ・俳句サミット:「俳句をユネスコの無形文化遺産にするために」 俳句協会各社と有識者のシンポジウム
- ・コンテスト: 国民文化祭記念全国俳句大会の開催
- ・遍路と俳句: 88か所をつなぐリレー俳句
- ・アートと俳句: 俳句をテーマにしたアート作品の展示や、俳句を基にしたパフォーマンス(音楽・ダンス・演劇・書道など)を行うことで、芸術と文学の融合を楽しむイベント
- ・食と俳句: 子規の大食いメニュー、四季折々の創作懐石料理 飲食店との協力
- ・スポーツと俳句: プロスポーツとの連携

③スケジュール

- 令和7年度 愛媛県による準備設立委員会の発足 事業内容の企画・立案
- 令和8年度 ソフト・ハード両面での環境整備の取り組み(上記(1)に記載)
- 令和9年度 8月開催の「俳句甲子園30回記念大会」について、県のサポートによりプレ企画としての位置づけ
- 令和10年秋 国民文化祭の開催 「俳句月間」における事業展開

5 まとめ

国民文化祭を短期目標に、最終的には愛媛の魅力を文化の力で底上げすることを最終目的とする。

魅力的な街になれば、地元住民の文化的な誇りの醸成、観光客の誘致と地域経済の活性化、教育機関との連携による次世代への文化継承などの側面が見込める。それにより、愛媛に定住したい人を増やし、人口減少・少子化にストップをかけ、さらには交流人口を増やすことで経済を回していける。

俳句は、「HAIKU」として、世界中がその存在を認め、すでに国際的な発信力を有している。俳句をつかえば、国内だけでなく世界中に、この愛媛からの発信が可能である。

この成功のために、俳人・俳句に関わる団体・有識者による横の連携、産官学の協力をもとに地域が一丸となり取り組むこと、愛媛経済同友会としてもその旗振り役の主要な一翼を担っていく所存である。

6 補足

【文化芸術委員会における活動状況及びその成果について】

当委員会では、過去5年間を通じ、文化芸術に関する講演会や勉強会、文化芸術をまちづくりに生かしている地域(大分県、山口県)への視察などを行ってきた。

■令和2年度(2020年): 講演1回

「コロナ禍に疲弊する文化芸術の現状など」 2020/10/2

講師: 松山ブンカ・ラボディレクター 戸館正史氏

■令和3年度(2021年): 講演2回

「子規と野球」 2021/10/4

講師: 子規新報編集長 小西昭夫氏

「AIと俳句、人工知能が俳句を詠む」 2021/12/10

講師：北海道大学大学院准教授 山下倫央氏

■令和4年度（2022年）：講演2回、視察（山口経済同友会@西日本大会：山口市）

「愛媛各地の風情をゆかりの文化や詩歌とともに味わう」 2022/12/16

講師：愛媛大学教育学部准教授 青木亮人氏

「俳句の多様性」 2023/3/28

講師：まつやま俳句でまちづくりの会会長 キムチャンヒ氏

■令和5年度（2023年）：視察（大分経済同友会：別府市、臼杵市）

「四国新幹線俳句コンテスト2023」の実施

■令和6年度（2024年）：

「四国新幹線俳句コンテスト2024」の実施

<成果>

2回実施した「四国新幹線俳句コンテスト」や、2023年10月に愛媛経済同友会主催で開催した西日本経済同友会会員合同懇談会（約500人参加）の懇親会内で行った「ご当地ナンバーワン俳句コンテスト」などにおいても、愛媛らしい企画というイメージにとどまらず、俳句の使い勝手の良さを実感することができた。

たとえば新幹線俳句コンテストにおいては、参加者が、俳句を作る行為を通して、新幹線に思いを馳せ、新幹線の事を改めて考えるきっかけとなった。本コンテストの目的は、新幹線誘致の機運を高めることであり、俳句はその目的を遂げるための手段として機能した。

さらに、四国新幹線俳句コンテストのグランプリ句は、次のとおり短い言葉で、新幹線のある生活の魅力を表している。

新幹線四国に来よと時鳥(2023年度グランプリ)

「さよなら」を「またね」に変える新幹線（2024年度グランプリ）

俳句は、短い言葉で深い感情や風景を表現し、共感性を生むことができる。その共感性が人と人の心をつなぎ、コンパクトな詩形が異分野とのコラボレーションをなじみやすくする。

また、俳句の創造性は、先の新幹線俳句コンテストのように、地域の様々な課題を考えるきっかけとなり、解決の一助となる。加えて、5 7 5のリズムは、一度聞いたフレーズがずっと心に残る強さ、愛誦性があり、詠まれる対象の魅力を短く言い表せることも容易にできるものである。

【地域活性化に俳句を活用した実例と効果】

① インフラ×ハイク

「四国新幹線俳句コンテスト」 主催：愛媛経済同友会

2023年より四国への新幹線誘致の機運を高めるため、新幹線の俳句を募集。県民に広く、新幹線について考えていただくきっかけ作り。幅広い年代（小学生～80代まで）の方から、2023年度は6329句、2024年度は5008句の応募があった。

② 観光&産業×ハイク

「西日本経済同友会合同懇談会内でのご当地ナンバーワン俳句コンテスト」

主催：愛媛経済同友会

2024年10月11日～12日、西日本の経済同友会会員約500名が集めた合同懇談会。その懇親会場で、それぞれの地域の自慢したいことを俳句でアピールするアトラクション企画。120句が集まり、その中から島根経済同友会の方の俳句がグランプリとなった。愛媛らしくてよいという感想を頂いた。

良き縁神在月の贈り物（島根県経済同友会会員）グランプリ句

③ スポーツ&教育×ハイク

「さくさく俳句ノート」 主催：野球と俳句で文化をはぐくむ実行委員会

2021年より、愛媛県下の小学校1年生全員にプレゼントされる俳句のノート。野球の力を借りて俳句と楽しく出会うことで、俳句作りがさくさく行えることを願った事業。いずれは野球の甲子園か俳句の甲子園を目指してもらえるようこどもたちへの願いがこもっている。

④ アート×ハイク

「美術館吟行事業」 主催：愛媛県美術館

2023年より、美術館を魅力ある観光拠点とするため、美術作品を見て俳句をつくる「美術館吟行」事業を推進中。手ぶらで来場し、簡単に俳句をつくるテキストや動画などのグッズ、仕組みづくり。アート作品をじっくり鑑賞するしかけとなる。

⑤ 観光&教育×ハイク

「全国高校生俳句甲子園」 主催：NPO法人俳句甲子園実行委員会

1997年よりスタート（松山市制施行130周年記念「第22回俳句甲子園」の経済波及効果は85百万円との試算（ひめぎん情報センター））

⑥ インバウンド×ハイク

MICE事業 主催：松山市観光コンベンション

インバウンド向けの愛媛特別体験旅行の中で、愛媛の伝統文化体験を行う。

⑦ 音楽×ハイク

「俳句の音楽祭」 主催：まつやま俳句でまちづくりの会、愛媛大学社会共創学部
松山ブンカ・ラボ

音楽から生まれる俳句と俳句から生まれる音楽。俳句を材料に「音を楽しむ」イベントを開催。

文化芸術委員会

代表幹事	山口 普	(株)フジ	代表取締役社長
〃	大西 康司	南海放送(株)	代表取締役社長
委員長	三瀬 明子	(有)マルコボ.コム	代表取締役
副委員長	伊藤 聡	(株)日本政策投資銀行	松山事務所長
〃	岩本 透	(株)SSP	代表取締役会長
〃	越智 陽一	(一社)坊っちゃん劇場	代表理事
〃	桑波田 健	岡田印刷(株)	代表取締役社長
〃	篠原 正人	杉原楽器店	代表
〃	水口 洋子	(有)コンシェルジュ	代表取締役
委 員	石橋 和典	(株)成武建設	代表取締役
〃	井上 光	(株)エム・スリー	代表取締役
〃	奥村 裕紀	(有)花泉・愛媛フラワー	代表取締役
〃	戒田 順	(株)戒田商事	取締役顧問
〃	門田 実	(株)門田商店	取締役会長
〃	門田 洋子	(有)松山ブライダルサービス	取締役
〃	川添 紀明	三愛建設(株)	代表取締役
〃	菅野 成彦	愛媛土建(株)	代表取締役
〃	栗田 敬	クレスコ増喜不動産(株)	代表取締役
〃	重松 宗孝	重松建設(株)	代表取締役
〃	島原 吉之	四国乳業(株)	代表取締役社長
〃	上甲 泰	ソニー生命保険(株)	
〃	清家 剛	愛媛建物(株)	代表取締役
〃	武智 正晴	(株)ベルモニー	代表取締役
〃	田中 典	(株)ケイ・アール総合企画	代表取締役
〃	乗松 宏吉	(株)もみじ建築	代表取締役
〃	平松 拓也	レクサス松山城北(株)	代表取締役社長
〃	藤澤 正治	フジサワテクノス(株)	代表取締役

委 員	船倉 卓男	(株)船倉	代表取締役
"	松浦 吉隆	(株)美工社	代表取締役社長
"	丸木 公介	丸木公認会計士事務所	代表
"	丸山 武	(有)マル	代表取締役
"	宮下 芳	(有)アルファ・プラス	代表取締役
"	三好 潤子	アビリティセンター(株)	会長
"	三好 哲生	(株)三好食産	代表取締役社長
"	森実 秀郎	森実機工(株)	代表取締役
"	山内 昭	(有)インテリア彩	代表
"	山澤 満	(名)山澤商店	代表社員
"	山路 義則	キスケ(株)	代表取締役社長
"	山本 嘉秀	八幡浜汽船(有)	代表取締役
"	和田 陽吾	(有)カズケン	代表取締役
"	渡部 裕司	(株)ミック	代表取締役社長
アドバイザー	青木 亮人	近現代俳句研究者・愛媛大学教育学部教授	

